

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 17 年第 50 週(12 月 3 週 12/12~12/18)

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先:052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

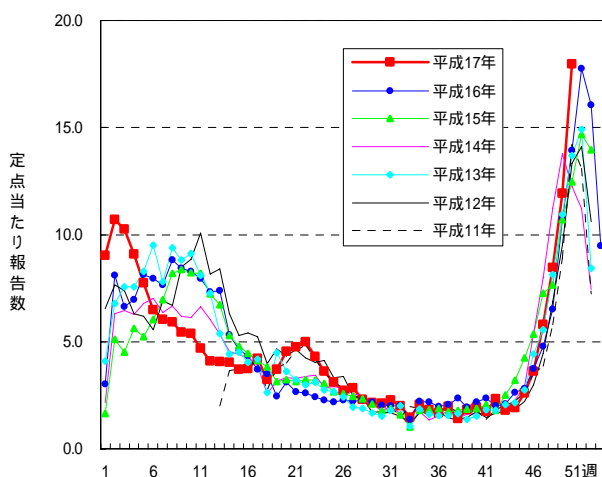
目次

感染症流行状況
定点医療機関コメント
全数把握報告
トピックス
インフルエンザの流行開始について
集団かぜの患者発生状況について

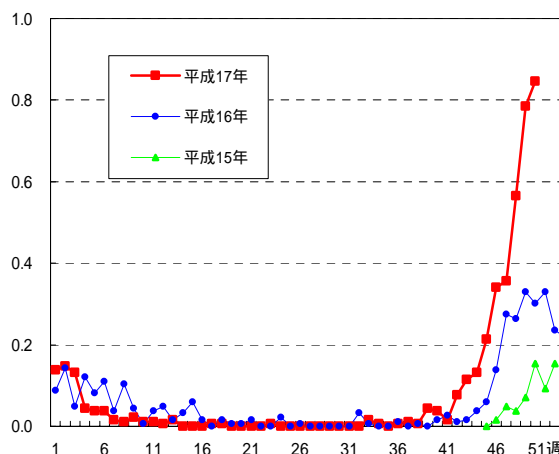
感染症だより(12月前半)
WHO疫学週報
2005年12月2日(80巻48号)
2005年12月9日(80巻49/50号)

感染症流行状況

感染性胃腸炎



RSウイルス感染症



その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

疾患名	前週	今週	疾患の概要
感染性胃腸炎	11.9 ▲	18.0 ▲	細菌(病原性大腸菌、サルモネラなど)や、ウイルス(ロタウイルス、ノロウイルスなど)によって引き起こされる胃腸炎
RSウイルス感染症	0.79 ▲	0.85 ▲	RSウイルスによる急性呼吸器感染症で、2歳以下の乳幼児に好発する。

愛知県感染症情報センター (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

麻しん・風しんの予防接種方法が変わります (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_3.html)

インフルエンザ関連情報リンク集 (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf_links.html)

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

感染性腸炎大流行。全年齢に多い。
インフルエンザ7人 流行拡大の傾向い
まのところなし。

ムンプス小流行

【一宮市 あさのこどもクリニック】
マイコプラズマ気管支肺炎 1歳男
幼児に感染性胃腸炎流行
インフルエンザは全てA型

【一宮市 後藤小児科医院】
病原性大腸菌O8 5歳男
病原性大腸菌O86a 28歳女
インフルエンザA型が流行中です。
アデノウイルス感染症が多いです。

【一宮市 城後小児科】
インフルエンザA型、水痘、感染性胃腸
炎が多い。

【一宮市 平谷小児科】
この1週間でインフルエンザ(+)40人
発生、前週の倍、すべてA型

【一宮市 一宮市立市民病院】
インフルエンザすべてA型で、小児が多
数出現しています。

感染性胃腸炎も多発しています。
年齢全体に発生

【一宮市 医療法人かすがい内科】

嘔吐、発熱、頭痛を主訴とする胃腸炎はピ
ークをむかえた様です。

キャピリアのキットはB型の疑陽性がで
やすい印象です（まだインフルエンザウイル
ス感染症はありません。）

【犬山市 武内医院】
RS感染症、多発しています。
細気管支炎で入院あり。
感染性胃腸炎も多発
（Non Rota, Non Adeno）
インフルエンザA型のみ5例（ワクチン接
種者3例）

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
嘔吐を伴う感染性胃腸炎が多発しています。
下痢は軽症が多いようです。
溶連菌感染症3名、アデノウイルス感染症
1名ありました。

また、インフルエンザA 1名（8歳男）
ありましたが、一宮在住の患児です。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】
胃腸かぜが未だ多い様です。
ロタウイルス(-)

【春日町 丹羽医院】
感染性胃腸炎 17名
インフルエンザA型 2名

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

ロタウイルスを含むウイルス性胃腸炎
が急増しました。

溶連菌感染、手足口病も多い。

アデノウイルス感染、マイコプラズマ感
染、RSウイルス感染もあります。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】
溶連菌感染症とマイコプラズマ感染症
が今週もみられています。

少数ですが、手足口病もまだみられます。
発熱、嘔吐が多くみられました。その他、
流行性耳下腺炎、突発疹、水痘等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
胃腸カゼ依然多いです。

【春日井市 春日井市民病院】

胃腸かぜ多数

水痘・溶連菌感染症少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】
RSウイルス感染症、感染性胃腸炎が相変
わらず多い。

インフルエンザA2例あり。

【小牧市 小牧市民病院】
RSウイルス感染症は減少傾向です。
嘔吐下痢症は増加しています。
ロタウイルスが一部に見られます。
溶連菌も多い。

【小牧市 志水こどもクリニック】
感染性胃腸炎が多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

A型2名、A & B 1名
【半田市 半田市立半田病院】
感染性胃腸炎多く家族発症もあり。
【半田市 医療法人林医院】
特に流行はありませんが、患者さん多いです。
【半田市 おっかわこどもクリニック】

胃腸力ゼ多い。
【南知多町 医療法人大岩医院】
嘔吐下痢を主訴とする患者さん急増
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
今週から胃腸炎が急増しました。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

4歳女、8歳女 strepA (+)
2歳男 ディレクティジェンRSV (+)
1歳男 病原大腸菌O25
1歳女 ラピッドテストロタノアデノ ロタ (+)
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
RSウイルス (+) 例が目立ちます。
ウイルス性胃腸炎も目立ちます。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
8歳男 インフルエンザA型
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
1歳女 アデノ (+)
7か月女 病原性大腸菌O6 (+) VT (-)
【岡崎市 にいのみ小児科】
6歳男 病原性大腸菌O78
4歳男 マイコプラズマ肺炎
感染性胃腸炎急増
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

ロタウイルス感染症増加
溶連菌感染症引き続き多い。
RSウイルス感染症時々
【碧南市 永井小児クリニック】
水痘が流行中
インフルエンザはありません。
【刈谷市 まついこどもクリニック】
インフルエンザ総検体数 52 件 陽性 3 例
全てA型
【安城市 愛知県厚生連安城更生病院】
A群溶連菌感染症、感染性胃腸炎が増えています
【三好町 三好町民病院】
感染性胃腸炎依然として流行しています。
【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

感染性胃腸炎流行中
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
インフルエンザ 19 名 すべてA型 (ほとんどは吉田方小学校1~3年生です。)
アデノ扁桃炎 1名 (3歳女)
【豊橋市 野村小児科】
RSかわらず多い。酸素必要な児おおいが無呼吸はなし。
インフルエンザA型当院では初です (豊橋在住女)。
救外にて 2 歳児CPAあり。CRP34
敗血症性ショックと思われる。
【豊川市 豊川市民病院】

アデノ扁桃炎 2歳男、6歳女、3歳女
【蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院】
感冒性胃腸炎が先週から今週にかけて多い。
【田原市 かわせ小児科】

後天性免疫不全症候群 2 例（病名：AIDS 1 例、その他 1 例、推定感染地域：国内 2 例、推定感染経路：性的接触 2 例）うち 1 例は 49 週報告分

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>)

梅毒 1 例（早期顕症 期、推定感染地域：国内、推定感染経路：性的接触）

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-11>)

つつが虫病 1 例（51 週報告分）

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#4-15>)

トピックス

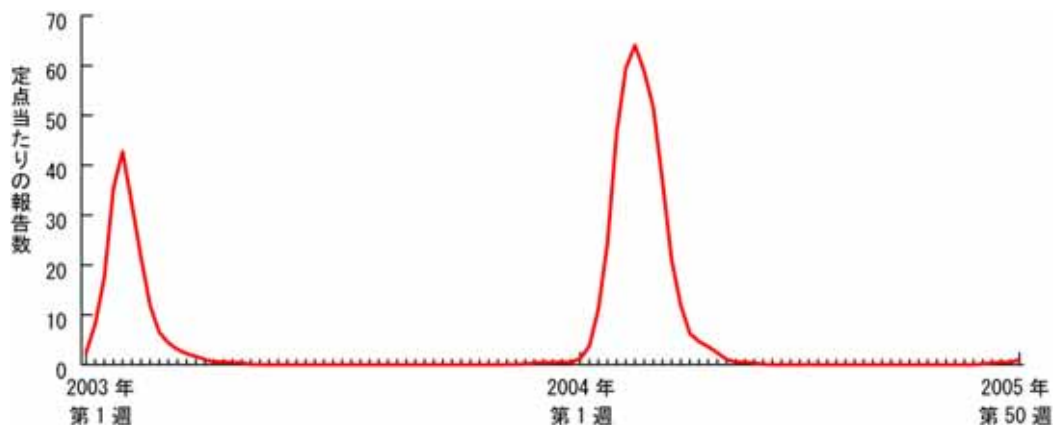
インフルエンザの流行開始について

第 50 週（12 月 12 日～18 日）における県内のインフルエンザ報告数は 1 定点医療機関当たり 1.03 人と前週（0.48 人）に比べて 2 倍以上に増加しています。この報告数は国立感染症研究所が示している流行期に入った目安である 1.0 人を超えるものであり、インフルエンザの流行は開始されたものと思われます。この流行開始時期は昨シーズンより約 1 か月早く、過去 5 年間では最も早いものとなっています。なお、現時点では注意報*および警報*は県内の全ての保健所（市）において発生していません。

今後は、流行の拡大が予想されますので、うがいや手洗いの励行等、予防を心がけて感染を防ぎましょう。

* 注意報・警報について

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムでは、インフルエンザの流行発生注意報は保健所（市）定点当たり 10 人を越えた場合に、また、流行発生警報は 30 人を越えた場合に発生し、10 人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。



集団かぜの患者発生状況について

	県		名古屋市		豊橋市		岡崎市		豊田市		合計	
	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数
12 / 20 現在	101	69									101	69
前年同期	0	0									0	0

注1 県には名古屋市、豊橋市、岡崎市及び豊田市の患者数及び欠席者数を除く。

2 患者数、欠席者数は、学級閉鎖等防疫措置を実施したものについて計上。

3 欠席者数は、患者数のうち欠席した者を再掲として計上。

集団かぜの発生等についての詳細はネットあいちの記者発表資料をご参照下さい。

記者発表資料 (<http://www.pref.aichi.jp/service/kisya/>)

大雪の朝、長靴をはいて現役の山岳部員だった頃愛用していた厚いシャツで着ぶくれて出勤、かなりの学生諸君が登校しているので感激。冬休みの予定なぞ楽しいお喋りで賑やかです。いつも貴重な情報を有難うございます。12月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはウイルス性胃腸炎と喘息性気管支炎が増加傾向でロタウイルス腸炎とインフルエンザA型が散発、水痘は例年通りの増加傾向、感染性胃腸炎の重症例と喘息性気管支炎が入院の主体でマイコプラズマ肺炎の入院が一定数あり、第二日赤岩佐先生からはRSウイルスの細気管支炎の入院が多く肺炎の入院も多い、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎7歳児3名、いずれも外食した、現在菌検査中、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎12名と目立ち（4名入院）、大腸菌O18が5名、O01が4名、O126が1名、黄ブ菌1名、ロタ+アデノ1名で他にムンプスと手足口病、咽頭アデノウイルス感染症1名、気管支炎・気管支肺炎の入院7名、RSウイルス性細気管支炎入院1名、中京病院柴田先生からは急性腸炎（嘔吐下痢）が増加、水痘散発、RSウイルス感染症の入院例多発中とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎多発中でムンプスが散発中、江南市昭和病院小児科からはウイルス性胃腸炎が多く（要入院例が目立つ）、A群溶連菌感染症、ムンプス、入院ではRSV感染症、クラミジア肺炎が目立ちインフルエンザはまだない、常滑市民病院上田先生からは水痘、ムンプス、RSウイルス性細気管支炎による入院が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは喘鳴、嘔吐、熱の患児が多く、入院では嘔吐主体の胃腸炎が目立ちロタウイルス散見、RSV感染症の入院が多い、加茂病院梶田先生からはRSウイルス感染症が多く入院例が目立ち、嘔吐を主体とする急性胃腸炎が増加し、（入院例が多く、1-2日で軽快、ノロウイルス？）、ロタウイルス性腸炎1-2名ありインフルエンザA1名、ムンプスはまだ流行中、急性喉頭蓋炎1名ありH.inf 陽性、刈谷市田和先生からは水痘やや多く、感染性胃腸炎かなり多発、碧南市永井先生からは嘔吐を主症状とする胃腸炎が多く乳幼児ではロタウイルス感染症も増加、溶連菌感染症も多い、RS、アデノウイルス感染症も時々、A型インフルエンザ1名、豊橋市からは感染性胃腸炎、ウイルス性胃腸炎、溶連菌感染症、ムンプスが目立ち、少数のアデノウイルス感染症、A型インフルエンザ1例あり（長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

2005 年 12 月 2 日（80 巻 48 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8048/en/>

鳥インフルエンザ。ベトナム最新情報：05 年 11 月 25 日保健省発表。人 H5N1 感染新規確認例 1 例。15 歳男性、ハイフォン省。11 月 14 日発病、16 日入院、回復。

黄熱。マリ共和国の最新情報：11 月 22 日時点で保健省は 53 例の疑い例を報告。ケーズ州（西部）。発生地区のワクチン緊急接種は、約 1 万 9 千人、95%に完了。隣接地区の緊急接種用ワクチン備蓄が 220 万人分到着。専門家チームが保健省を支援中。

黄熱。スーダン：11 月 21 日、保健省発表。南コールドファン州（注：反政府軍支配地）で 11 月 27 日までに 530 例（死亡 131）。カイロの検査センター送付 38 検体中 3 検体陽性。サーベイランスと緊急接種チームが活躍中で 170 万人分のワクチンが 11 月 27 日到着。
(<http://www.emro.who.int/index.asp>)。

ムンプス。世界のムンプスワクチン接種状況とサーベイランスに関する総説：最初にムンプスの重要性、特に神経系合併症に関する長文の解説あり、教科書的なので省略。1) ムンプスワクチン：弱毒ワクチンが開発されて 30 年、WHO の各国あての指針が 2001 年の本週報、45 号 346～355 頁に示されており WHO / ユニセフ合同報告が 99 年以来毎年発表されている (http://www.who.int/immunization_monitoring/data)。ムンプス対策として生後 12～18 か月に接種開始、根絶には非常に高い集団免疫度が要求されるので 2 回接種法、追加接種が勧告されている。本報は 04 年の状況である。全世界の 192 カ国中ムンプスワクチン定期接種実施国は 109 カ国（1 回法 20 カ国、2 回法 89 カ国）57%であった（世界地図あり、日本は定期接種ではないので「なし」群に分類されている）。WHO 地域別では 04 年 12 月時点でアフリカ地域の実施国は 4%、欧米で 94～97%の国が定期接種、日本が属している西太平洋地域では 37%の国が定期接種していた（地域別一覧表あり）。定期接種 109 カ国中 105 カ国が MMR 三混、93%の国が初回を生後 12～15 か月で接種、2 回目は 11 カ国が 13～24 か月、64 カ国が 3～7 歳、14 カ国が 9～12 歳に接種していた。ワクチン接種率：WHO / ユニセフの推定では 04 年で世界全体の生後 23 か月までの小児の 76%が麻疹ワクチンを含むワクチン接種を受けているがムンプスワクチンについては詳細不明。世界全体で 2800 万人がムンプスワクチンを接種されていると推定されている。2) ムンプスに関するサーベイランス：臨床診断と急性期の IgM 抗体陽性、ペア血清の IgG 抗体上昇、ウイルス分離で報告を各国に依頼しているが報告率は高くない（04 年欧州地域で 73%、アフリカ地域で 20%の国から報告）。04 年には 65 万人の報告があった（年次別、地域別一覧表あり。3) 分子疫学：ムンプスウイルス RNA の遺伝子解析・命名が国際専門家チームにより開始されている。4) 最近のムンプス流行：近年定期接種を開始した国ではまだ流行があり、接種率の低い国（日本があげられている）抗体獲得不良ワクチン（90 年代に使用されその後中止されたルビニ株ワクチンなど）使用地区などで流行している。

11 月 25 日～12 月 1 日届出。コレラ：コンゴ民主共和国、マリ、ニジェール、ウガンダ、ザンビア。

2005年12月9日(80巻49/50号) <http://www.who.int/wer/2005/wer8049/en/index.html>

鳥インフルエンザ。中国の近況：中国政府の招待でWHOは最近2例の人H5N1感染例が発生した安キ省の現地調査に参加。11月上旬に検査確認。24歳と35歳の農婦。お互いの接触なし。詳細な調査が進行中。中国では高病原性H5N1の養鶏場における大発生が10月中旬から全国的にみられ、9省で25事例の新規発生報告あり。

鳥インフルエンザ。インドネシアの近況：11月29日、保健省が新規H5N1人感染例1例を報告。16歳男性、西ジャワ州居住。発熱と咳で11月6日発病、呼吸困難で16日入院、回復。7歳と20歳の兄弟が11月3日発熱と呼吸困難で発病、11月6日死亡、検査材料は採取出来ず。同国の累積数12例(死亡7)。

ポリオウイルス。野生株による実験室内汚染。ロシア：04年末、モスクワのWHO地域標準検査センターにロシア国内某検査室(WHOネットワーク以外の検査室、ラボXと名前が伏せてある)から採取時期の異なる6地区での下水材料からポリオ1型強毒野生株の分離材料送付。精検の結果強毒野生株のマホニー株。ロシアでは97年のWHO勧告に従い野生株は全国の検査室・研究室から廃棄処分されている。調査の結果廃棄時に弱毒ワクチン株のセービン株とラベルの間違いを犯し、セービン株としてマホニー株を7年間ストックしており、その間実験室内汚染が発生したものと判明(詳細な調査状況などの報告あり。略)。全国の検査室・実験室の再チェックが実施されている。

インフルエンザ。大流行(パンデミー)インフルエンザに関する10ヵ条。1)パンデミックインフルエンザは鳥インフルエンザと異なる：鳥インフルエンザウイルスには多数の種類があるが原則として感染するのは鳥に限られ、ごく稀に種の垣根をこえて豚や人に感染する。それまで人の間で伝播していなかった新しいタイプのウイルスが出現して人に適応、人から人への伝播からパンデミーが発生する。鳥ウイルスはまだパンデミーウイルス(以下新ウイルス)ではないが、なる可能性はある。2)インフルエンザパンデミーは反復して発生している：1918年、57年、68年と周期的に世界規模の流行が発生。3)世界は大流行にさらされている可能性あり：現在は新型ウイルスによる人から人への伝播は認められていないが可能性はある。4)大流行に国境はない：人口移動が大量かつ迅速になっている今日、流行拡大は以前より急速、広範囲と思われる。5)新型ウイルスには免疫による防御が期待できない。6)医薬品供給：抗ウイルス剤、ワクチンともに供給体制に問題があり、特に途上国では深刻である。7)大量の死亡が予測される：過去の新型ウイルス大流行から推定して今回大流行が発生すれば推定死者数は200~740万とWHOは算定している。8)社会経済的損失が膨大である。9)世界全ての国準備すること。10)大流行脅威が増強した時はWHOから警告が発表される：WHOは大流行のリスクを第1~6フェーズに分類(現在フェーズ3)、そのつど勧告発表(http://www.who.int/csr/resources/publications/influenza/WHO_CDS_CSR_GIP_05_8-EN.pdf)。

サウジアラビア外国人旅行者入国。特にメッカ巡礼者に：黄熱：黄熱常在国からの入国者は黄熱ワクチン接種証明書が必要。髄膜炎菌性髄膜炎：2歳以上の小児・成人は髄膜炎菌4価ワクチン接種、さらにサハラ南縁の常在国からの入国者には入国時に抗生剤を投与。高リスク者のインフルエンザワクチンの推奨。食品の持ち込みは不可

12月2~8日届出。コレラ：ガーナ、ギニア、ギニアビサウ、セネガル、ウガンダ。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第50週(平成17年1月3日～平成17年12月18日)(累計)

愛知県衛生研究所

		定点数																										
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	成人麻しん
愛知県(名古屋市を含む)		195	182	35	51	13	769	80,736	2,987	8,990	41,054	12,154	3,330	1,025	6,059	63	35	12,435	23	9,451	25	1,573	11	11	286	2	1	
愛知県(名古屋市を除く)		125	112	24	37	12	647	64,255	2,287	6,202	29,264	9,703	2,744	811	4,700	50	18	9,770	14	7,542	18	1,214	11	11	286	2	1	
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	122	16,481	700	2,788	11,790	2,451	586	214	1,359	13	17	2,665	9	1,909	7	359						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	53	4,175	547	867	1,439	497	106	38	252	3	2	674	3	367		42			72			
海部	津島	7	7	2	2	1		3,271	24	163	1,963	421	109	88	176	1	1	542		653		51	1	2	16			
尾張中部	師勝	4	4	1	1			2,064	2	156	872	242	38	22	97		1	404		230	2	76						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	16	4,792	180	382	2,471	708	304	42	423	2	1	642		773	1	131	1		4			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	226	7,544	413	575	1,984	731	344	38	468	14	6	911	1	375		78	2	4			1	
	江南	6	6	1	2		47	2,742	186	584	2,575	779	109	45	470	1	1	782	2	616		62						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	21	2,957	178	283	1,236	438	259	45	264	1		151	1	313	3	65			4			
	知多	7	7	2	2		40	3,773	141	457	1,389	511	79	29	321		1	459	1	462	1	31						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	21	6,147	64	432	759	805	200	57	614	6		971		688	4	75						
	衣浦東部	13	13	2	4	1	52	9,046	95	634	2,502	1,207	188	145	454	3	1	1,013	3	689		217			14			
	西尾	5	5	1	2	1	13	1,894	20	294	1,200	475	196	41	206			504		257	1	30			2			
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	69	4,656	52	493	5,305	893	188	71	396	11	2	1,150	1	566		118	3	4	125	2		
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	34	6,910	298	574	3,024	597	275	67	328	4	1	711		387	2	153	4		31			
	豊川	9	8	1	2	1	55	3,618	82	296	2,513	1,345	338	81	225	4	1	831	2	1,157	4	85		1	18			
東三河北部	新城	2	2			1		666	5	12	32	54	11	2	6			25		9								

愛知県感染症情報

2005年第1週～第50週(平成17年1月3日～平成17年12月18日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザを 除く。(高病原性鳥 インフルエンザ)	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	647	64,255	2,287	6,202	29,264	9,703	2,744	811	4,700	50	18	9,770	14	7,542	18	1,214	11	11	286	2	1
～6ヶ月	203	320	19	11	434	246	22	2	322	17	1	108		7		10					
～12ヶ月	136	966	100	32	1,954	572	141	52	2,591	8		717	2	33		10					
0歳																	4		4		
1歳	147	3,300	369	161	4,208	1,623	647	50	1,659	4	4	2,155	3	351		38		1	42		
2歳	88	3,703	296	313	3,030	1,611	515	46	1,113	5	3	1,699	2	684	1	37			45		
3歳	23	4,367	446	650	2,803	2,004	503	88	13	3	1	1,721	1	1,201	1	53	1	1	39		
4歳	26	5,596	398	1,097	2,617	1,680	399	121	1	3	1	1,306	1	1,613		42			31		
5歳	13	5,520	267	1,256	2,248	974	253	134		1	3	934	3	1,334	1	34					
6歳	9	5,381	157	912	1,624	448	105	98		2		489	1	902	1	26					
7歳	2	4,081	73	573	1,134	213	50	70			2	258		503		14					
8歳		3,718	39	353	948	102	37	53		1		139		294	1	18					
9歳		3,236	34	249	720	55	20	41				90	1	187		10					
5歳～9歳																		3	69		
10歳～14歳		5,856	46	340	1,797	120	18	45	1	1	1	102		259		39			24	1	
15歳～19歳		997	4	32	583	13	1	1				9		26	1	33			3	1	
20歳～			39	223	5,164	42	33	10		5	2	43		148			6				
20歳～29歳		4,283													4	206		1	6		
30歳～39歳		6,152													3	324		2	6		1
40歳～49歳		2,641													2	113		2	3		
50歳～59歳		1,861													3	89		1	4		
60歳～69歳		1,152														65			5		
70歳～																53					
70歳～79歳		685																	3		
80歳以上		440																	2		